

大学における読書推進活動 —学生によるテーマ別図書ディスプレイを中心に—

Reading Book Project - Themed book displays by students and other activities -

石川県立大学 教養教育センター 山岸 倫子・桑村 佐和子・新村 知子
図書・情報センター 竹中 匠

1. はじめに

本プロジェクトは、平成 19 (2007) 年度に教養教育センターの「学科等が企画するプロジェクト研究」(石川県立大学) として実施された読書行動研究プロジェクト (以下、RBP とする。RBP は Reading Book Project の略称である。) を受けて実施されたものである。前回の RBP の目的は、学生達に良い本を沢山読んでもらうきっかけを生み出す可能性を探ることであった。全体を通して学生達の感想を見ると、前回の RBP は概ね好意的に受け止められたようで、継続を期待する声も複数寄せられた (注 1)。

ただ、課題がいくつか残ったことも事実である。例えば、学生達への働きかけを、より自然で親近感を持てるような方法で行う必要があったのではないかということや、学生との協働が不十分であったこと、また、教職員から、学生の読書レベルに合致した図書を推薦するのが難しかったこと等が挙げられる。

そこで、今回のプロジェクトは、学生により身近な読書行動推進活動のあり方を模索しながら、読書に親しむきっかけの一端を明らかにすることを目的として始まった。

2. 今回の RBP 活動内容

1年を通した活動の流れは表 1 の通りであるが、RBP として行った活動は大きく分けて 2-1.~2-5.の 5 つである。また、その多くが、有志の学生 RBP メンバーとの協働のもと行われた。RBP 学生メンバーは、2-1.で述べるアンケート上で募集した。プロジェクト終了まで活動した学生メンバーは 18 名であった。

表 1 RBP 活動の流れ

RBP活動内容	
5月	・第1回RBP教職員ミーティング (17日) ・第1回RBPアンケート実施 (下旬)
6月	・第2回RBP教職員ミーティング (14日) ・第1回RBPミーティング (29日)
7月	・第2回RBPミーティング (13日) ・図書・情報センターの環境整備 (掲示板・ソファ等の購入) ・教職員推薦図書の募集
8月	・課題図書 (本屋大賞ノミネート作品) を読み、第0回Biweeklyディスプレイ「本屋大賞」に使用するPOPを作成
9月	
10月	・第3回RBPミーティング (5日) ・第0回Biweeklyディスプレイ「本屋大賞」 ・第1回Biweeklyディスプレイ「ファンタジー」 ・教職員推薦図書紹介 (Biweeklyディスプレイの入れ替えに合わせ、7回に分けて行った。)
11月	・第2回Biweeklyディスプレイ「旅行」 ・第3回Biweeklyディスプレイ「ミステリー」
12月	・第4回Biweeklyディスプレイ「大学生活」 ・第5回Biweeklyディスプレイ「一人暮らし」
1月	・第6回Biweeklyディスプレイ「恋愛小説」 ・第7回Biweeklyディスプレイ「映画化された小説」 (2月10日まで) ・第2回RBPアンケート (中旬から下旬)
2月	・第4回 (最終) RBPミーティング (8日)

2-1. 学生の読書行動調査

学生の読書行動を支援する活動を考えるためには、まず、学生の読書行動の現状を把握する必要がある。そこで、2011年5月下旬に、1~3年生を対象にアンケートを実施した。調査は授業時間の一部を使って実施され、回収数は354 (有効回収数351、無効回収数3) であった。有効回収の内訳は1年生132 (男64、女66、不明2)、2年生117 (男39、女77、不明1)、3年生102 (男36、女66) である。

本プロジェクトでは学生の読書行動を、①頻度、②時間、③パソコン・携帯電話等での読書の頻度、④新聞・雑誌・漫画等の接触頻度、⑤よく読むジャンルと

今後読みたいジャンル、⑥好きな作家、の6つの点から捉えることにした。また、前回のRBPでも、同様のアンケート調査を行っているため、ここでは簡単に比較をしながら、学生の読書行動の傾向を分析する。

①読書の頻度

まず、雑誌や教科書を除く本を読む頻度をみると、「よく読む」「時々読む」の比率の合計が42.1%となっており、約4割の学生が読書をしている(表2)。これについては、前回のRBPの場合には48.6%であったため、若干ではあるが減少している。

表2 読書の頻度 % (人)

	よく読む	時々読む	あまり読まない	全く読まない	無回答	計
全体	9.1(32)	33.0(116)	25.6(90)	29.6(104)	2.6(9)	100.0(351)
1年生	6.1(8)	38.6(51)	24.2(32)	29.5(39)	2.2(2)	100.0(132)
2年生	13.7(16)	29.1(34)	27.4(32)	29.1(34)	0.9(1)	100.0(117)
3年生	7.8(8)	30.4(31)	25.5(26)	30.4(31)	5.9(6)	100.0(102)

②読書時間

それではどのくらいの時間を読書に当てているのだろうか。表3によると、①の「全く読まない」学生を除くと、約半数が平均して1日のうち「30分未満」である。次いで、「30分以上1時間未満」が約3割で、4分の3の学生が1時間以内である。前回の調査でも同様の結果となっている。

表3 1日あたりの読書時間 % (人)

	2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	無回答	計
	4.9(12)	15.8(39)	27.5(68)	49.0(121)	2.8(7)	100.0(247)

③電子媒体を通しての読書

最近、パソコンや携帯電話等で本を読む環境が整ってきているが、本学の学生はどの程度そのような電子媒体を使って読書をしているのだろうか。表4によると、「よく読む」と「時々読む」をあわせた、読んでいる学生の比率は21.6%で、約2割の学生が電子媒体を通して読書しているようである。一方で、約6割は「全く読まない」と答えている。この結果は、前回のRBPでの調査結果とよく似ており、本学の学生では、あまり変化がないことがわかる。

表4 パソコン・携帯での読書の頻度 % (人)

よく読む	時々読む	あまり読まない	全く読まない	無回答	計
7.1(25)	14.5(51)	16.2(57)	61.8(217)	0.3(1)	100.0(351)

④新聞・雑誌・漫画への接触状況

i) 新聞

表5のように、新聞を読む学生は26.8%である。逆に約5割の学生は全く読んでいない。前回の調査では「毎日読む」「時々読む」学生が31.9%であったことから、新聞を読む学生が減っていることがわかる。

表5 活字への接触頻度 -新聞- % (人)

毎日読む	時々読む	あまり読まない	全く読まない	無回答	計
9.1(32)	17.7(62)	20.5(72)	51.3(180)	1.4(5)	100.0(351)

ii) 雑誌

次に、雑誌を見ると(表6)、2割弱の学生がよく読んでいる。また、「時々読む」とあわせると、55.5%と半数を超える学生が雑誌を読んでいることがわかる。しかし、前回の調査結果(「よく読む」「時々読む」の合計が59.8%)と比べると、若干ではあるが、雑誌を読む割合も減っているようである。

表6 活字への接触頻度 -雑誌- % (人)

よく読む	時々読む	あまり読まない	全く読まない	無回答	計
18.2(64)	37.3(131)	18.2(64)	24.2(85)	2.0(7)	100.0(351)

iii) 漫画

次に、漫画について見ると(表7)、「よく読む」(35.0%)、「時々読む」(31.1%)をあわせると3分の2の学生が読んでいることが分かる。前回の調査と比べてもほとんど変化はない。

表7 活字への接触頻度 -漫画- % (人)

よく読む	時々読む	あまり読まない	全く読まない	無回答	計
35.0(123)	31.1(109)	18.2(64)	14.8(52)	0.9(3)	100.0(351)

⑤よく読むジャンルと今後読みたいジャンル

学生がよく読むジャンルと今後読みたいジャンル(複数回答可)の上位3つは、前者がコミック・漫画(233人)、ミステリー・サスペンス・ホラー(109人)、暮らし・健康・旅行ガイド(54人)であり、後者が、科学・テクノロジー(86人)、ミステリー・サスペンス・ホラー(68人)、エッセー・随筆・評論(52人)

であった。前回の調査では、よく読むジャンルは同様の順位であったが、今後読みたいジャンル上位3つは、科学・テクノロジー、ノンフィクション、ミステリー・サスペンス・ホラーであった。

⑥好きな作家

本学学生の好きな作家トップ10は以下の通りである。

第1位：東野圭吾、第2位：有川浩・山田悠介、第4位：乙一、第5位：伊坂幸太郎、第6位：あさのあつこ、第7位：恩田陸、第8位：森絵都・宮部みゆき、第10位：西尾維新・森見登美彦

半数の作家は前回の調査でもトップ10に入っていたが、今回、有川浩、山田悠介、森絵都、西尾維新、森見登美彦らが新たにトップ10に入った。また、夏休み前に、上記11名の作家による作品を5冊程度ずつ購入し、展示・貸し出しを行った。

2-2. 図書・情報センター環境整備

図書・情報センターの環境や設備についてRBP学生メンバーと話し合った際、センターの入り口が奥まわって寂しいために入りづらい、また、センター内の椅子の座面が硬く、長時間座っていると疲れる、との声が聞かれた。

そこで、センターの入口へつながる廊下に掲示板(大小1枚ずつ)やイーゼル(2台)を設置して、RBP活動内容等を知らせる掲示物を貼ることとした。また、ゆっくり座って本が読めるように一人掛けソファを8脚設置した。

2-3. テーマ別図書展示

隔週のテーマ別図書展示である「Biweekly ディスプレイ」は、後期に計8回行われ、本研究プロジェクトの中心的な活動となった。8つのテーマは、第2回RBPミーティングにおいて、学生から提案のあった7つ(ファンタジー、旅行、ミステリー、大学生生活、一

人暮らし、恋愛小説、映画化された小説)と、教員から提案した「本屋大賞」とした。

各Biweekly ディスプレイ担当者は、自分達のディスプレイが開始する3週間前に、基本的に一度だけ担当教員とミーティングを持った。そこで、購入する書籍やディスプレイの方向性を話し合った後、グループメンバーは2週間かけてPOPの作成を中心としたディスプレイの準備(予算は、図書費とディスプレイ資材購入費をあわせて30,000円)を行った。そして、担当ディスプレイが始まる前の週の金曜日に、図書・情報センター内の貸し出しカウンター前テーブル、センター前の掲示板(大)、イーゼルのディスプレイを行い、また、ポスターを作成して学内に掲示した。

教職員メンバーは、新しいディスプレイが始まると、教職員全員とRBP学生メンバーに、メールでディスプレイの告知を行った。RBP学生メンバーは、ディスプレイや展示図書の感想を書いた本型のポストイットを、貸し出しカウンター前テーブルの横に設置されたイーゼルに貼ることとした。



図1 Biweekly ディスプレイの様子とPOP。左上：図書・情報センター前の掲示板、右上：イーゼル、センター内貸し出しカウンターテーブル、下段：学生メンバーによるPOP例2点。

2-4. 教職員推薦図書

7月中に教職員の方から推薦図書を募ったところ、15名の方から、計36作品についての推薦文が寄せられた。これらの作品については、Biweekly ディスプレイの期間と合わせて、隔週で7回に分けて紹介した。学生掲示板と図書・情報センター前の掲示板に「先生

たちはこんな本を読んできた！—教職員推薦図書—と銘打ったポスター（推薦文を記載）を掲示し、センター内では、貸し出しカウンター前テーブル近くの本棚上に図書を展示した。

2-5. 教員によるサブ企画

学生による Biweekly ディスプレイの横で、教員による二つのサブ企画を行った。一つ目は、学生の生活と関連の深い「食堂」をテーマにした作品の展示・貸し出しを行うものであった。二つ目は、本学の専門領域に関連ある、農業や食、環境をテーマにした漫画を展示・貸し出しするものであった。環境関連の漫画としては、本学の高月紘先生より御著書を寄贈頂いた。

3. 学生からの RBP 活動への反応

3-1. 学生全体の反応

本プロジェクトへの学生全体の反応を調べるために、1～3年生を対象としたアンケートを2012年1月に行った。調査は授業時間の一部を使って実施され、回収数は330、無効回収0であった。その内訳は1年生126（男63、女63）、2年生110（男40、女70）、3年生88（男33、女55）、4年生3（男1、女2）、学年性別不明3であった。さらに、全体のうちの16人がRBPメンバーであり、内訳は1年生8（男4、女4）、2年生5（女5）、3年生3（女3）である。なお、授業履修の関係で、4年生が含まれている。

①Biweekly ディスプレイへの反応

まず、図書・情報センターで行われていた Biweekly ディスプレイの認知度をみると（表8）、約3分の2の学生が認知していた。また、学年別に見てもほとんど差はなかった。

表8 Biweekly ディスプレイの認知度
% (人)

	知っていた	知らなかった	計
全体	66.4(219)	33.6(111)	100.0(330)
1年生	64.3(81)	35.7(45)	100.0(126)
2年生	70.0(77)	30.0(33)	100.0(110)
3年生	67.0(59)	33.0(29)	100.0(88)
4年生	66.7(2)	33.3(1)	100.0(3)

※学年が無記入のため不明の3名は分析から外している。

Biweekly ディスプレイを認知していた学生は、その8割が Biweekly ディスプレイを「良かった」と評価している（表9）。

表9 Biweekly ディスプレイの評価
% (人)

	良かった	どちらとも言えない	良くなかった	無回答	計
全体	80.4(176)	19.2(42)	0.0(0)	0.5(1)	100.0(219)
1年生	80.2(65)	19.8(16)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(81)
2年生	84.4(65)	14.3(11)	0.0(0)	1.3(1)	100.0(77)
3年生	78.0(46)	22.0(13)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(59)
4年生	0.0(0)	100.0(2)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(2)

また、Biweekly ディスプレイで設置されていたPOPについては（表10）、「よく読んだ」と「時々読んだ」をあわせると半数を超える学生がポップを読んでいたことがわかる。

表10 Biweekly ディスプレイのPOPへの関心度
% (人)

	よく読んだ	時々読んだ	あまり読まなかった	全然読まなかった	計
全体	11.9(26)	44.3(97)	21.5(47)	22.4(49)	100.0(219)
1年生	14.8(12)	46.9(38)	17.3(14)	21.0(17)	100.0(81)
2年生	10.4(8)	44.1(34)	20.8(16)	24.7(19)	100.0(77)
3年生	10.2(6)	42.4(25)	25.4(15)	22.0(13)	100.0(59)
4年生	0.0(0)	0.0(0)	100.0(2)	0.0(0)	100.0(2)

一方、本を借りた人となると約2割しかいない（表11）。Biweekly ディスプレイの活動期間は10月から2月上旬までの4ヶ月間であること、さらにアンケート調査を1月第3週に行っていること（つまり、あまり期間が長くないこと）を考えると、残念に思うほどのこともないかもしれない。

表11 Biweekly ディスプレイで
展示されていた本の貸し出し状況
% (人)

	複数借りた	1回借りた	借りなかった	計
全体	11.4(25)	11.0(24)	77.6(170)	100.0(219)
1年生	13.6(11)	9.9(8)	76.5(62)	100.0(81)
2年生	13.0(10)	10.4(8)	76.6(59)	100.0(77)
3年生	6.8(4)	13.6(8)	79.6(47)	100.0(59)
4年生	0.0(0)	0.0(0)	100.0(2)	100.0(2)

②教職員の推薦図書への反応

教職員の推薦図書も隔週で展示されていたが、それを認識していた学生は約4割であった（表12）。

表12 教職員の推薦図書の認知度
% (人)

	知っていた	知らなかった	無回答	計
全体	40.9(135)	57.0(188)	2.1(7)	100.0(330)
1年生	34.1(43)	63.5(80)	2.4(3)	100.0(126)
2年生	48.2(53)	50.0(55)	1.8(2)	100.0(110)
3年生	43.2(38)	54.5(48)	2.3(2)	100.0(88)
4年生	33.3(1)	66.7(2)	0.0(0)	100.0(3)

※学年が無記入のため不明の3名は分析から外している。

さらに、推薦図書の展示を認知していた学生に限って、その利用状況を見ると（表 13）、推薦文を読むにとどまる人が約 4 割、中まで見たり、借りたりする人が 3 割強であった。

表 13 教職員推薦図書の利用状況 % (人)

	推薦図書を借りた	手にとって中を見たが、借りなかった	推薦文は読んだが、本を手にとってみることはなかった	推薦文は読まなかったし、借りなかった	計
全体	6.7(9)	26.7(36)	43.7(59)	23.0(31)	100.0(135)
1 年生	2.3(1)	39.5(17)	39.5(17)	18.7(8)	100.0(43)
2 年生	9.4(5)	20.8(11)	47.2(25)	22.6(12)	100.0(53)
3 年生	7.9(3)	21.1(8)	44.7(17)	26.3(10)	100.0(38)
4 年生	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(1)	100.0(1)

③ソファ設置に対する反応

図書・情報センターでの読書の環境を良くすることを目的として、ソファの設置を行ったが、その利用率は約 3 割であった（表 14）。ソファが設置されたのを知りつつも利用しない人たちも約 3 割いた。

表 14 ソファの利用状況 % (人)

	利用した	知っていたが利用していない	設置されたのを知らなかった	無回答	計
全体	30.6(101)	32.4(107)	35.8(118)	1.2(4)	100.0(330)
1 年生	36.5(46)	27.0(34)	35.7(45)	0.8(1)	100.0(126)
2 年生	21.8(24)	30.0(33)	47.3(52)	0.9(1)	100.0(110)
3 年生	34.1(30)	43.2(38)	20.5(18)	2.2(2)	100.0(88)
4 年生	0.0(0)	66.7(2)	33.3(1)	0.0(0)	100.0(3)

※学年が無記入のため不明の 3 名は分析から外している。

④RBP のような取り組みに対する期待

今回、学生との協働を重視して RBP を進めてきたが、このような取り組みに対する期待をみると（表 15）、「ぜひ続けて欲しい」が約 4 割、「できれば続けて欲しい」が約 3 割となっており、あわせると 7 割強の学生から継続への期待が寄せられた。

表 15 RBP のような取り組みに対する期待 % (人)

	ぜひ続けて欲しい	できれば続けて欲しい	どちらともいえない	あまり興味がない	まったく興味がない	無回答	計
全体	43.0(142)	30.9(102)	13.9(46)	9.4(31)	1.8(6)	0.9(3)	100.0(330)
1 年生	55.6(70)	25.4(32)	10.3(13)	6.3(8)	1.6(2)	0.8(1)	100.0(126)
2 年生	40.9(45)	31.8(35)	11.8(13)	11.8(13)	2.7(3)	0.9(1)	100.0(110)
3 年生	29.5(26)	36.4(32)	21.6(19)	11.4(10)	0.0(0)	1.1(1)	100.0(88)
4 年生	33.3(1)	66.7(2)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(3)

※学年が無記入のため不明の 3 名は分析から外している。

⑤RBP による読書への興味の高まり

今回の RBP の取り組みを通して、学生の読書への興味が高まったかについては、表 16 のように「非常に高まった」学生が 1 割であり、「まあまあ高まった」

学生までを含めば、約 4 割に影響があったことが分かる。先の結果からすると、必ずしも本の貸し出し等には直接結びついてはいないものの、学生自身が何か影響を感じるころはあったようである。

表 16 RBP による読書への興味の高まり % (人)

	非常に高まった	まあまあ高まった	どちらとも言えない	高まらなかった	RBP の活動内容を全く知らなかった	無回答	計
全体	10.0(33)	29.4(97)	35.8(118)	7.0(23)	16.7(55)	1.2(4)	100.0(330)
1 年生	11.9(15)	26.2(33)	42.9(54)	4.8(6)	13.5(17)	0.8(1)	100.0(126)
2 年生	0.7(8)	35.5(39)	28.2(31)	9.1(10)	19.1(21)	0.9(1)	100.0(110)
3 年生	11.4(10)	27.3(24)	34.1(30)	6.8(6)	18.2(16)	2.3(2)	100.0(88)
4 年生	0.0(0)	33.3(1)	33.3(1)	33.3(1)	33.3(0)	0.0(0)	100.0(3)

※学年が無記入のため不明の 3 名は分析から外している。

⑥RBP に対する意見

アンケートには RBP に対する感想や意見を書く自由記述欄を設けたが、そちらにも RBP 学生メンバーは勿論のこと、一般学生からも、活動への満足や期待が多く寄せられた。また、RBP 教職員メンバーが本プロジェクトを通して達成したかった、読書へのきっかけ作りとしてとらえている学生も少なからずいることがわかった。以下、学生からの感想（原文ママ）をいくつか紹介する。

- ・ Biweekly ディスプレイはいつも面白そうで、手に取ってしまう。よい企画だと思います。
- ・面白そうな本が入り口の一か所に集まっているので、本を手取る機会が増えました。
- ・このプロジェクトがきっかけで本を借りることが多くなった。
- ・すごくいい取り組みだと思いました。見やすく、本に興味をわきました。
- ・何か本を読みたいけど、何を讀もうか迷っているとき、ああいう風にわかりやすく紹介されていると、読む本を決める手掛かりになってよかったです。とても魅力的でした。

3-2. RBP 学生メンバーからの反応

第 4 回（最終）RBP ミーティングにて学習ポートフォリオの記入を行ったが、その内容を見ると、メンバーは皆、本活動を楽しみ、また大きな達成感を得ることができたようである。すべてのメンバーが掲載を快諾してくれたため、以下、ポートフォリオの内容（原

文ママ)をいくつか紹介する。

- ・「旅行」をテーマにディスプレイ作成を行ったが、一つのテーマで人の興味をひきつけることがいかに難しいかを知ることが出来た。
- ・理系の大学なので、読書好きな人は、ほとんどいないと思っていたので、図書館に本が少なくても仕方ないとあきらめていたが、RBP ができて、それに参加したことで、好きな本について語るが増えたとし、いろんな本を読むようになった。
- ・最初は、ディスプレイやポップを作っても、本に興味のある人だけが手に取って見るだろうと思っていました。しかし、ポップを作り、ディスプレイの飾りつけをしているところを見ていた友人から、「すごくよかったよ!」という嬉しい言葉をもらいました。また、ディスプレイが出来上がってからすぐに本に興味を持ってきている学生さんもいて活動してよかったと心から思いました。この活動を通じて、自分も本に対してさらに興味をもつことができ、興味のはばも広がりました。
- ・自分が POP で紹介した本が借りられているのを見た時の感動が凄かった!新しい Biweekly ディスプレイが始まったら友達に見に行ってくれるように言ったし、その友達の一人が、高校まではあまり本を読んでなくて、この活動で本を借りて読むようになったと言ってくれた。この活動をやっていて良かったと実感して凄く嬉しかった。これからも続けたい。

4. 結論と課題

本研究は、読書に親しむきっかけの一端を明らかにしようと始まったが、学生が興味を持って積極的に活動に参加することが、他の学生からの関心も高めることに繋がるのが分かった。3-1.で示した通り、アンケート評価が好評だっただけではなく、実際に、本研究プロジェクトを通して購入もしくは紹介した図書の貸し出し率は非常に高かった。2011年7月1日から2012年2月8日までの間に、本活動を通して紹介された390作品中272作品が一回以上貸し出されており、つまり、約7割の図書が、学生の目に触れた可能性が

ある(表17)。

表17 貸出回数と作品数(2011.7.1.~2012.2.8.)

貸出回数	16	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
作品数	1	2	1	2	2	6	15	17	15	43	71	97

また、それだけでなく、RBP 学生メンバーにも本研究・活動が大きな達成感をもたらしたことは喜ばしいことであった。誰かに何かを PR するという事、他人のために進んで行動するという事、また、自らが行った活動に対して感想や意見などの反応を得ることの喜びを知る、という経験は、今後彼らが社会に出ていく時、大きな糧となるであろう。

一方で、本研究・活動にはいくつか課題も残っている。主要なものとしては、本活動への認知度・理解度をもっと上げられたのではないかと、ということがある。図書・情報センターの環境整備と図書展示だけではなく、より多様な活動を展開する必要があったのではないかと。また、本活動に対する学生からの評価は高かったが、本活動を通して読書への興味が高まったと答えた学生は全体の4割に留まったことについても、原因の究明及び活動の改善が必要と思われる。

最後に、本研究・活動は、RBP 学生メンバーからは勿論のこと、他の学生からも続けてほしいとの声が非常に多かった。また、今回の研究・活動には様々な課題も残っている。そして何より、読書推進活動は、継続してこそより多くの成果が得られるものである。よって、このような研究・活動は、今後も学生との協働のもとで続けていくことが望ましいのではないだろうか。

注1. 平成19年度のRBP活動については「読書行動研究プロジェクトチーム. 2008. *読書の芽を育てる君と響きあうRBP-Reading Book Project-*. 石川県立大学教養教育センター。」を参照されたい。